



災害現場の第一線で活動する自衛隊から学ぶ 「見て」「聞いて」「やってみる」



1 即製担架で負傷者の運搬を体験 2 3 鹿児島地方協力本部の西隊員が被災地での救助活動について講話 4 給水車の水を飲んでみる生徒たち

11月13日、自衛隊員12名が田代中を訪問して防災教育を行いました。九州北部豪雨での救助活動を始め、激甚災害現場で活動する隊員の話を受講。講師を務めた西隊員は「同時多発した災害時はすぐに助けが来ない。自分の身を守りお互いに助け合う力を身に付けてほしい」と話し、被災時に避難する場所を家族で決めておく予定避難所の重要性も訴えました。長袖の上着2着と竹竿を使った即製担架で負傷者を運ぶ方法も体験。被災地に派遣される給水車や、200人分の炊き出しを作る災害派遣部隊車両に乗車するなど、実際に見て聞いて触れてもらうことで災害救助における現状を伝えました。

被災地に派遣される隊員は数日分の水や食料など約30kgの荷物を担いで現地に向かいます。中学生がこれらの荷物を背負うと立っているのがやっとの状況です。



12月6日は新聞紙など身の回りにある物を避難生活に役立てる方法を学びました。非常食の試食では、毎日当たり前のように食べられることへの感謝の思いを話した生徒たち。この日は防災教育のまとめとして、東日本大震災で被災した釜石東中学校の生徒たちが、全員で高台を目指して津波から避難し、多くの児童・生徒が助かった「釜石の奇跡」について小瀧防災専門監が講話。

「率先避難者たれという教えを忠実に守り、小学生の手を引いて避難した生徒の勇気ある行動で小中学生1,927名が助かった。災害発生時、中学生の自分たちに何ができるか、この機会に考えてほしい。想定外の災害を生き抜く力を身に付けて」と訴えました。



1 身近な新聞紙も災害時は防寒対策に使える 2 水で非常食のラーメンなどを試食

中学生の自分たちができること 想定外に対応する力

守られる側から守る側に

大きな災害を経験したことのない生徒たちが、地域の子どもたちや高齢者、そして自らの命を守る強さを身に付けてほしいと始まった防災学習は「知る」ことからでした。講話や体験を通じて学んだことは、災害の怖さ、備えの大切さ、大切な人を守るために何が出来るのか――。

「高齢化が進み人口が少ない地域では中学生も中心的役割を担います。守られる側から守る側になってほしい。防災知識を身に付けた生徒たちは、これから社会に出て教育の成果を広げます。結果として社会全体の防災力を底上げすることに繋がるはず」と期待を込める西校長。

普段何気なく使っている「想定外の災害」。自然を相手に人は経験からしか想定できません。想定外の事態が起こったときにこそ自分で判断し、対応できる『生きる力』がこれからの教育に求められています。

錦江町立 田代中学校
西 ゆかり 校長



Interview

田代中学校で始まった3年間の防災学習プログラム

生きるための防災力

自らの命を守る力、大切な人を助ける力の定着を目指して令和元年度からスタートした防災学習。1年間の取り組みをレポート！

問合せ▶総務課 ☎ 22-0511

防災学習の取り組みを
報告します！



想定を超える災害は起こる
状況を判断し対応する力を

地域の特性を生かして各小中学校が独自に取り組む「特色ある学校づくり」。その一環として田代中学校が進めているのが、災害に対応できる力を身に付ける防災学習です。

自分の身は自分で守る、守られる側から守る側に立つなどを目標に、「知る」「考える」「動く」を各年度のテーマとして設定。昨年7月から計4回12時間の授業を行い、県防災センターの見学や、災害時に第一線で活動する自衛隊員の体験講話、町が整備する非常食の試食など、初年度は「知る」ことを中心に進めました。「災害はいつどこで起こるか誰にも分かりません。自分で判断し行動できる力を高める防災教育の広がり」が求められている」と話す小瀧防災専門監。同時多発的に発生する災害時、公助には限界があります。防災の7割を占める自助力の育成は必要不可欠です。



錦江町防災専門監
(地域防災マネージャー)
小瀧 弘規

県防災研修センター見学&体験 防災知識を深める

7月11日、鹿児島県防災研修センター（始良市）を見学。2つのグループに分かれて鹿児島ならではの火山活動や、地震、大規模火災や土砂災害などについて学習しました。熊本出身講師による熊本震災の講話を受講したあと、ビニール袋を使った雨ガッパ作りなどを体験。帰りのバスでは田代中の坂井先生による鹿児島の地理的な特性を学習し、垂水市深港川の土石流跡に作られた砂防ダムを見学しました。9月20日は校内で自助・公助・共助の重要性や災害発生メカニズムを学び防災知識を深めました。



1 2 県防災研修センターの職員から鹿児島特有の災害について説明を受ける 3 ゴミ袋を使って非常時用の雨ガッパ作りを体験



今年度は「知る」ことを中心に防災学習に取り組んだ生徒たち。かけがえない命。自らの命、大切な人の命を守るために次年度は「考える」をテーマに取り組みを進めます。